

諏訪市とセイコーエプソン株式会社による 環境保全・脱炭素社会実現等に係る連携協定

- 1 脱炭素社会に対する世界の状況
- 2 諏訪市に係る脱炭素社会
- 3 本協定による取組



1 脱炭素社会へ対する世界の状況

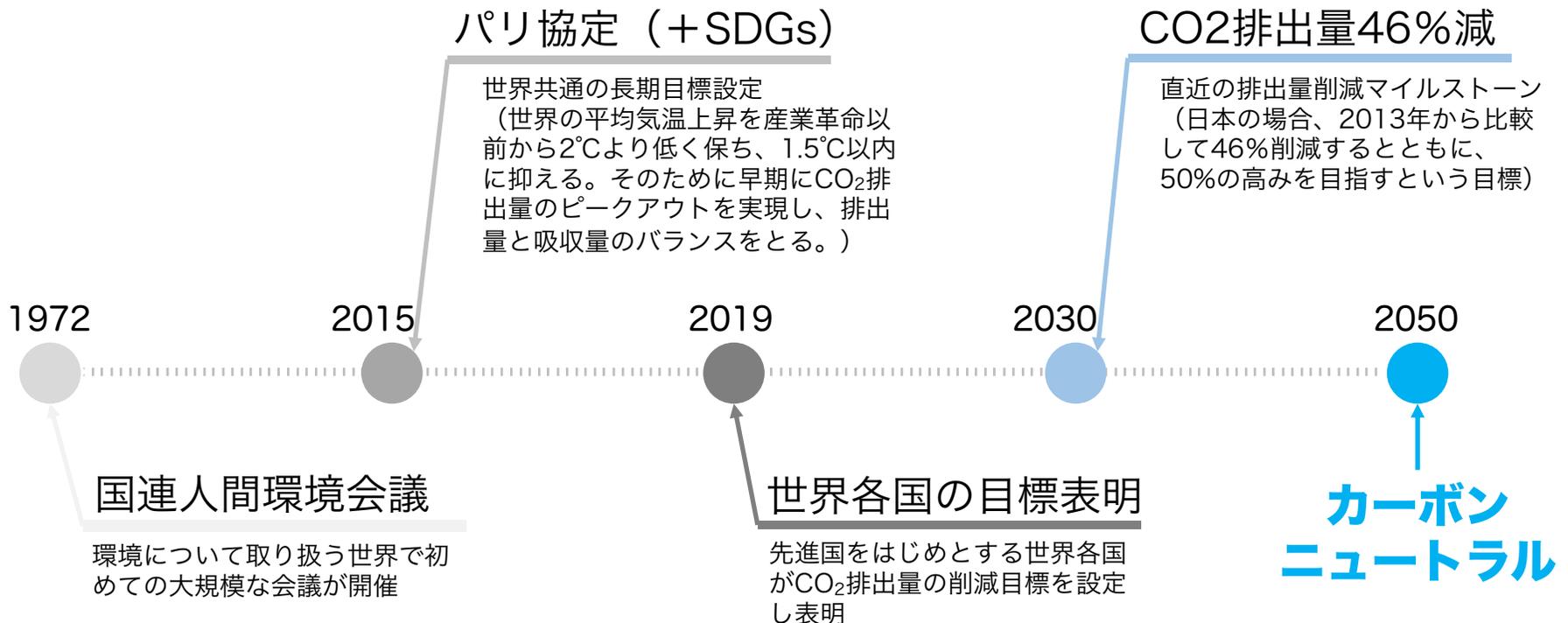
◆世界の動き

◆日本及び自治体の目標

◆企業の動き

脱炭素社会へ向けた世界の動き

2015年のSDGs、パリ協定以降、世界の環境に対する取組は加速しています。特に、脱炭素への取組は国際会議では必ず議題となり、報道でも注目されています。この脱炭素は国家だけの目標で終わらず、企業の取組につながっています。Googleは2017年時点で全ての電力を100%再生可能エネルギーへ転換。Appleは2030年までにサプライチェーン全体でのゼロカーボンに約束、諏訪市に本社があるセイコーエプソンにおいても、2050年にカーボンマイナスを目指すことを表明しています。今やゼロカーボンは世界の常識になりつつあります。



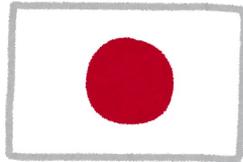
政府、自治体の温室効果ガス削減目標

そんな状況の中、日本は2030年度までに温室効果ガスの排出量を2013年度比46%削減し、50%の高みを目指すという目標を設定しています。それに対して、各自治体もそれぞれ目標の設定をしています。長野県及び諏訪市は政府の目標を上回る60%削減という野心的な目標設定をしています。この目標を達成するためには、全ての関係者が力を合わせて取組を行う必要があります

2030年

2050年

国



46%削減！
50%の高みを目指す。

長野県



諏訪市



森林吸収量を含めて
60%削減！

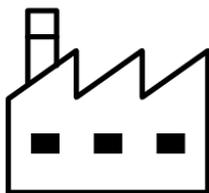
カーボン
ニュートラル

企業の高い目標設定

各国政府が目標を設定して取組を推進していますが、それ以上に取組が進んでいるのが大企業です。市内に本社のある東証プライム上場企業セイコーエプソンはもちろん、日本を代表する自動車メーカー、世界的な電子機器メーカー、巨大ITプラットホーム等が環境配慮、脱炭素社会実現への取組を進めています。企業にとっても環境配慮は世界的なトレンドです。

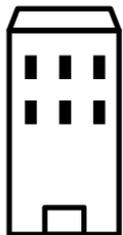
EPSON

2050年に カーボンマイナス と
地下資源消費ゼロ達成



大手自動車メーカー

サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルに向け、
サプライヤーにCO₂排出量削減を要求



大手電子機器メーカー

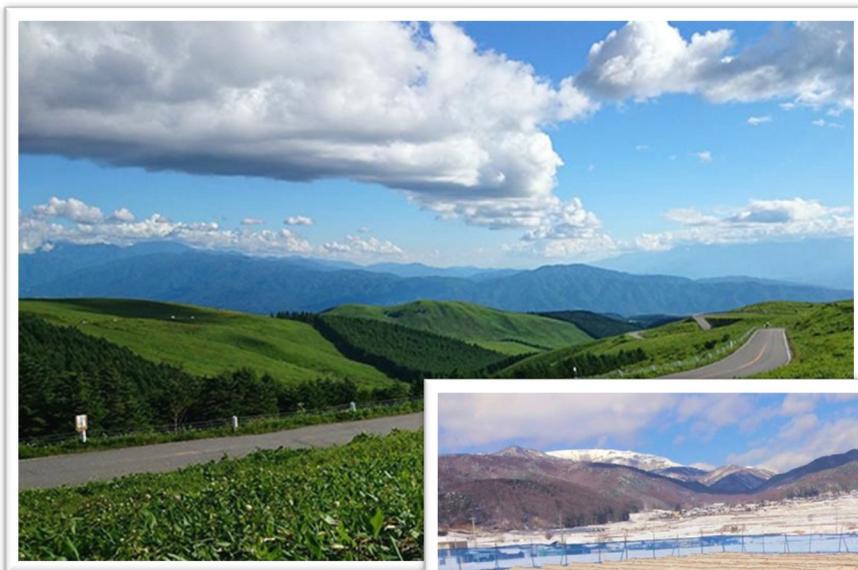
2030年までに **サプライチェーンの100%**
カーボンニュートラル達成を約束

2 諏訪市に関わる脱炭素

- ◆地球温暖化の諏訪市への影響
- ◆諏訪市の環境への取組
- ◆セイコーエプソンの環境への取組

恵まれた自然環境や文化への影響

地球温暖化は世界的な課題ではありますが、諏訪市の自然環境や文化へも大きな影響をもたらします。エアコンの商品名にも使われている霧ヶ峰高原の冷涼な気候、神事にも関連する諏訪湖での御神渡り、寒冷かつ乾燥した冬の気候を活用した寒天産業。どれも温暖化の影響による脅威にさらされています。



脱炭素時代に選ばれるまちになるために

脱炭素は、地球温暖化対策にとどまりません。今や経済と脱炭素の関係も考えざるを得ない状況です。地場産業や観光素材への影響という直接的なものから、取り組まないと取引できなくなる、取り組まない製品は選ばれない、取り組まない地域を魅力と感じられないということまで。どの分野においても取組は必要です。

主要産業

工業



産業競争力



世界的サプライチェーン

観光



訪問地
選択判断

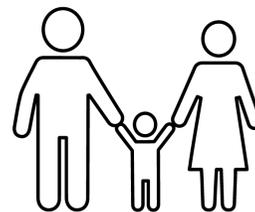


インバウンド・SDGs世代

生活



暮らしたいまち



SDGs世代・地元住民
・移住者

暮らし

脱炭素社会と地方創生

脱炭素社会実現は、単にCO₂排出量が削減されて達成されるわけではありません。環境分野の取組により、社会や経済が充実する。経済の発展により社会が充実し、自然環境が保全される。このような分野を跨いだ効果を念頭に置き、「地方創生」を同時実現する必要があります。

この考えはSDGsウェディングケーキモデルを見ることで実感できます。「環境の上に社会が成り立ち、それにより経済が発展する。」「経済が発展することで社会が充実し、環境の保全につながる。」という効果の連鎖が期待できます。脱炭素社会実現への取組が自然とSDGsに寄与し、持続可能な環境、社会、経済の発展につながります。



高原湖畔都市から脱炭素社会実現へ

地球温暖化という地球規模の課題に対して、諏訪市は令和4年3月、市民、事業者、行政という関係者が力を合わせて取り組む決意を「ゼロカーボンシティ宣言」で表明しました。諏訪市は、冷涼な気候有する避暑地であり、その恵まれた環境を観光資源として活用しています。また、主要産業である製造業についてはサプライチェーンにおける取組を求められています。恵まれた環境を次世代につなぐ、産業の活力を維持し地方創生を推し進める。そのためにも、諏訪市は地球温暖化を含めた環境課題に取り組まなければなりません。

令和5年度からはゼロカーボンシティ推進室を設置し、脱炭素社会実現とそれに伴う地方創生を目指しています。



【ゼロカーボンシティ宣言】

持続可能で心豊かな社会実現へ

諏訪市に本社を構えるセイコーエプソン株式会社は、1942年、自然に恵まれた信州諏訪地方に創業して以来、「地域との共生」を礎とし、事業がグローバルに成長する中であっても、自然環境を敬う企業風土は変わることはなく、常に「高い目標」を掲げて、「継続的」に環境活動を進めてきました。その中で、「環境ビジョン2050」においては、「カーボンマイナス」および「地下資源消費ゼロ」を目指すことを示しています。「持続可能でこころ豊かな社会の実現」を目指すため、脱炭素と資源循環という大きな社会課題への取り組み姿勢を強く示すための目標を策定し、その達成に向けた取り組みを進めています。

EPSON



2050年に「カーボンマイナス」と「地下資源*1消費ゼロ」を達成し、
持続可能でこころ豊かな社会を実現する

*1 原油、金属などの枯渇性資源

達成目標	アクション
<ul style="list-style-type: none">● 2030年：1.5℃シナリオ*2に沿った総排出量削減● 2050年：「カーボンマイナス」、「地下資源*1消費ゼロ」	<ul style="list-style-type: none">● 商品・サービスやサプライチェーンにおける環境負荷の低減● オープンで独創的なイノベーションによる循環型経済の牽引と産業構造の革新● 国際的な環境保全活動への貢献

【EPSON環境ビジョン2050】

3 連携協定締結による取組

- ◆協定の締結
- ◆協定の内容
- ◆具体的取組例

環境保全・脱炭素社会実現のための協定締結

環境への取組は市民、事業者、行政という全ての関係者が力を合わせて取り組むことが必要です。地域の魅力である環境の保全、ゼロカーボンシティ実現による地方創生を目指す諏訪市。地球温暖化を始めとする地球規模の環境問題に取り組むとともに、社会課題解決と新たな価値創出を目指すセイコーエプソン株式会社。この2者が同一の目標達成を目指し連携した取組を推し進めるために、連携協定を締結することとなりました。



- ・第六次諏訪市総合計画
- ・第三次諏訪市環境基本計画
- ・ゼロカーボンシティ宣言

連携による
相乗効果

EPSON

- ・環境ビジョン2050
- ・長期ビジョン
Epson 2050 Renewed

地球規模の**環境課題解決**
新たな価値創出による**地方創生**

締結した協定の連携取組の対象

協定では、諏訪市とセイコーエプソン株式会社が、それぞれの知的・人的・物的資源を有効に活用して、環境保全・脱炭素社会を実現することを目的としています。目的達成のために取り組む内容は以下の5項目になります。

- ▶ 諏訪湖や河川をはじめとする環境の保全に関する事
- ▶ 脱炭素社会実現に向けた活動に関する事
- ▶ 紙類の削減及びリサイクルに関する事
- ▶ 環境教育に関する事
- ▶ その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関する事

諏訪市の資源循環・脱炭素支援 (取組効果の見える化と発展)

セイコーエプソン株式会社は、社内で使用する紙資源を1年間で半減させた実績があります。この取組のノウハウによるペーパーレス化推進とともに、庁内で使用する紙資源の有効活用及び環境効果発揮を加速させます。

エプソンの技術



ペーパーラボの有効活用

ペーパーレス化
ノウハウ

低消費電力
インクジェットプリンタ



紙資源循環による環境効果

PaperLabで、確かな環境効果が生まれています

アップサイクルセンターでは、「紙資源循環による環境効果」の見える化を行っています。

◆ PaperLabで再生した新たな紙
(2019年9月～2023年3月)

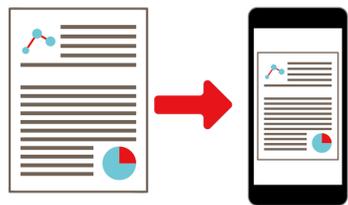
2,922.2万枚

上記再生実績がもたらした環境効果



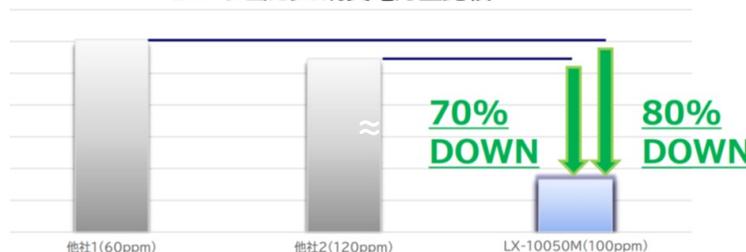
ペーパーラボ再生用紙の効果見える化

効果の見える素材の
更なる有効活用

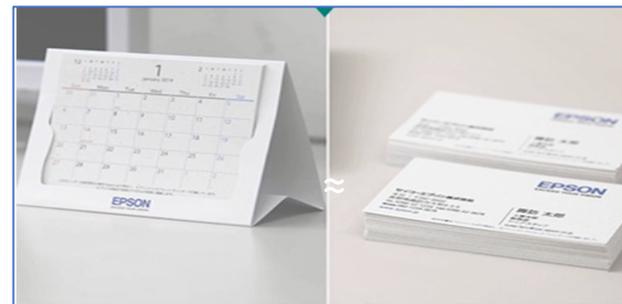


ペーパーレス推進

1ページ当たりの消費電力量比較



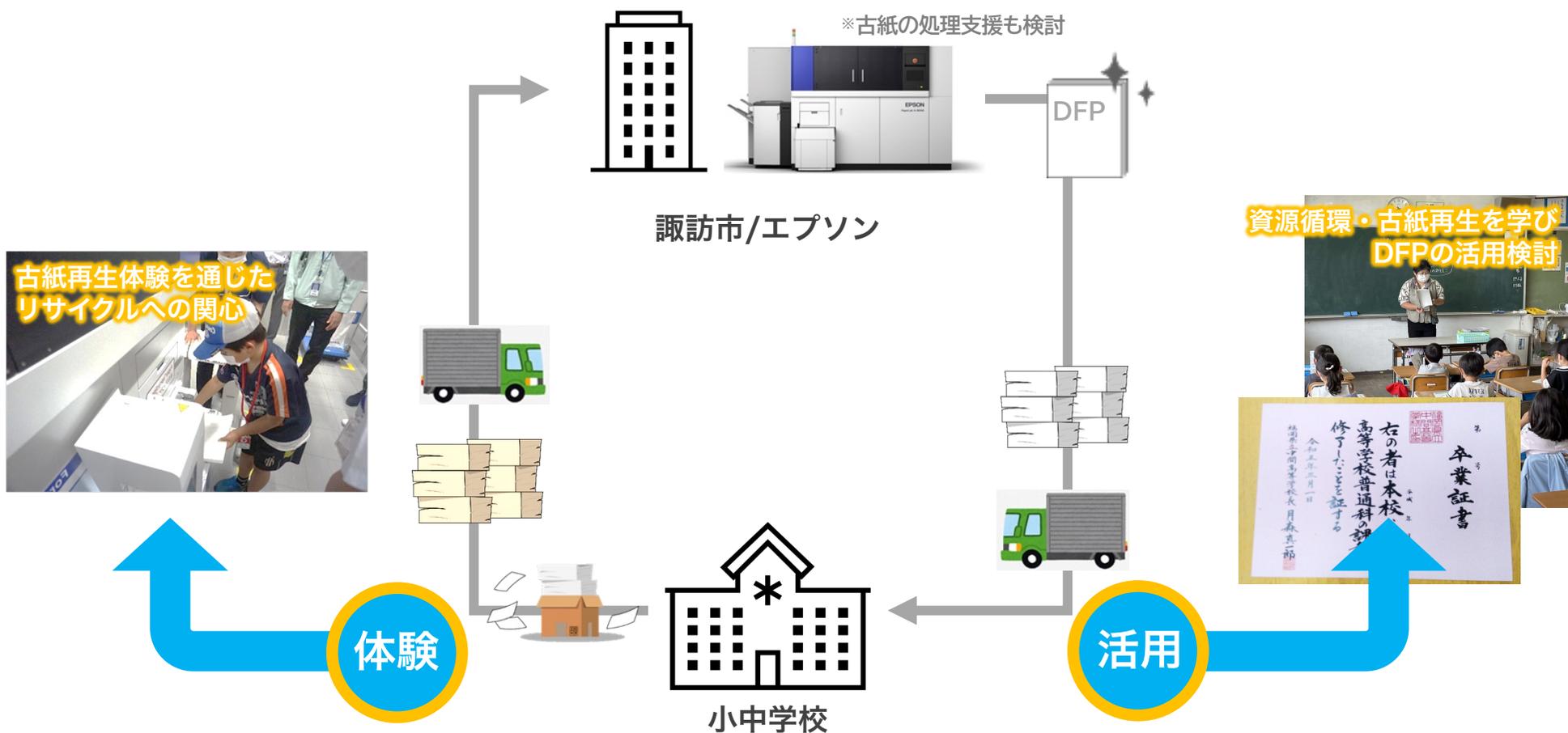
行政事務の消費電力削減



多様な活用で資源循環の拡大

子どもへの環境教育支援（実体験による意識醸成）

セイコーエプソンの乾式紙再生機ペーパーラボを活用しての市内小中学生が学びの場で使う紙を再生する体験等により、リサイクルへの興味、DFPの活用検討等に自ら関わる機会を生み出し、実践型環境教育実現の支援を行います。また同時に、小中学校での紙資源循環を実現します。



最適ルート分析によるCO₂排出量削減（環境配慮と効率化）

セイコーエプソンの物流資材の動態管理ノウハウを活用し、廃棄物収集等の最適ルートの分析を行うことで、収集業務等の効率化を図るとともに、それに伴うCO₂排出量の削減を実現します。まずは現時点で排出しているCO₂量の可視化から取り組みます。

エプソンの取組

物流資材の動態管理



パレット



シャーシ



かご車



動態・位置管理（GPS等）



状態検知

技術
導入



諏訪市の事業



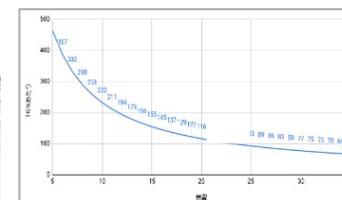
ごみ収集



かりんちゃんバス



ルート解析と
最適ルート提案



CO₂排出量可視化



業務効率化と環境配慮実現

観光資源を活用した環境保全活動（新たな保全活動）

トライアスロン大会でも使用したGPS技術を活用し、ユーザー主導型XR観光プラットフォームと環境保全活動を組み合わせ、観光客も気軽に楽しみながら参加できる環境保全活動＝環境保全レジャーの構築を支援します。

エプソンの技術

状態検知

動態・位置管理（GPS等）

映像技術

技術
導入



参加型観光手法

ロゲイニング・スポーツツーリズム

手法
導入



諏訪市での活用案

景色

名所

農産物

名物

カフェ

ゴルフ

環境に優しい移動手段

色々あって楽しい

CO₂削減可視化

活動に応じたポイント等